

みんなの
臨床検査

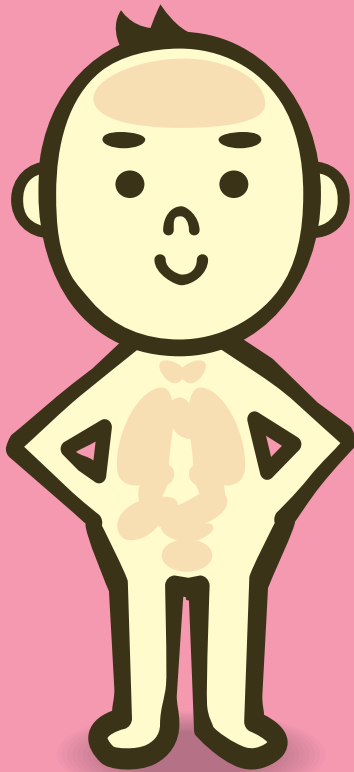
検査で守るあなたの健康

www.jpclt.org



アレルギーの検査

血液、尿などの臨床検査



jpclt.org

臨床検査振興協議会
Japanese Promotion Council for Laboratory Testing

アレルギーとは？

アレルギーとは、本来異物の進入から体を防御する免疫が過剰に働いた結果引き起こされる症状のことを言います。

アレルギーを起こす原因(アレルゲン)には色々ありますが、このアレルゲンに対するグロブリン(IgE)という抗体が増えるとアレルゲンに結合してアレルギーを起こしやすくなります。

アレルギー疾患の例としては以下のようなものがあります。

- アトピー性皮膚炎
- アレルギー性鼻炎(花粉症)
- アレルギー性結膜炎
- アレルギー性胃腸炎
- 気管支喘息、小児喘息
- 食物アレルギー
- 薬物アレルギー、じんましん 蕁麻疹



鼻炎



喘息



結膜炎

アレルギーの原因となるもの(アレルゲン)には以下のような代表的なものがあります。



卵



牛乳



そば



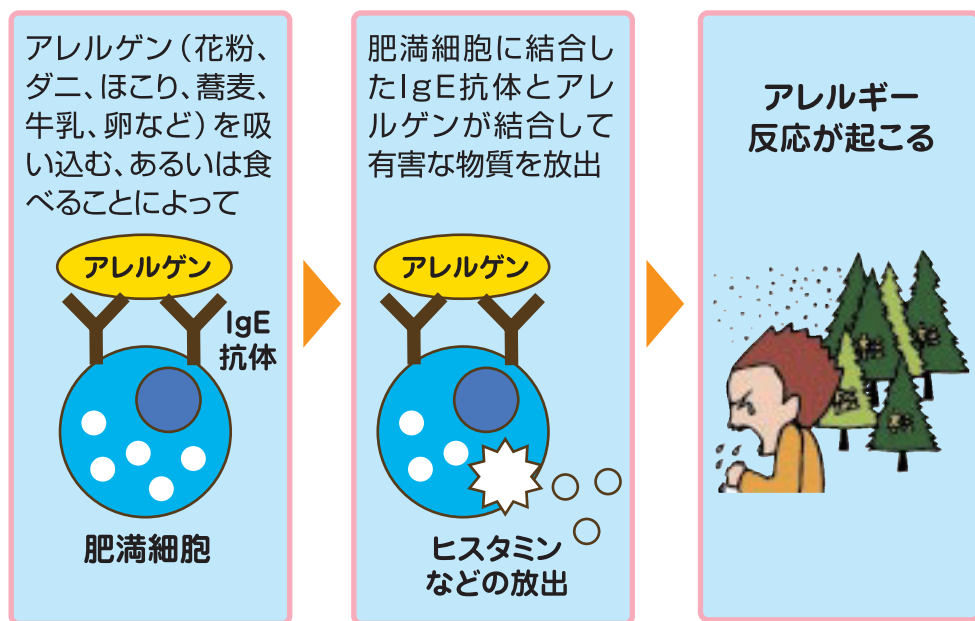
杉花粉

免疫とアレルギーはどう違うの？

免疫とは人にとって有益な反応です

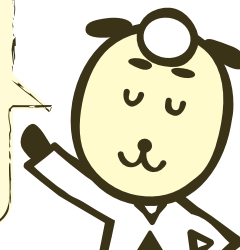


アレルギーとは人にとって不快な過敏反応です



血液を用いたアレルギーの検査

アレルギーの原因物質 (アレルゲン) は人によって違います。アレルギー疾患の治療・予防を行うためには、まずアレルゲンを特定することが大切です。少量の血液によって簡単に検査ができます。



アレルギーの免疫反応に関係する物質の1つがIgE抗体ですが、アレルゲンごとに反応する抗体は決まっています。例えば、卵に対するIgE抗体は卵だけに反応し、アレルギーを起こします。

この性質を利用して、患者さんの血液に、どのアレルゲンに反応する抗体がどの位あるかを測ります。卵のIgE抗体がたくさんあれば、卵がアレルゲンである可能性が高いということになります。

ただし、抗体の量とアレルギー症状が必ずしも一致するとは限りません。抗体が少なくてもアレルギーがおこったり (IgE抗体以外によるアレルギー、ヒスタミンなどアレルギーをおこす化学物質を含む食べ物による)、抗体がたくさんあってもアレルギーがおこらない (IgE抗体をじゃまする物がある、ヒスタミンなどに反応しないなど) 場合があります。



資料提供:天理よろづ相談所病院 臨床病理部
監修:臨床検査振興協議会 広報委員会